

防災行政無線（同報系）デジタル化再整備について

(企画戦略部危機管理課)

1 用語

- (1)防災行政無線（同報系）…総合防災センターの基地局から電波を送信し、市内各所にある屋外拡声子局で受信することで、音声放送をするシステム。
(※以下、同報無線)
- (2)屋外拡声子局…市内173箇所にある、スピーカー、受信機が設置された柱など一式。
(※以下、子局)

2 同報無線の目的

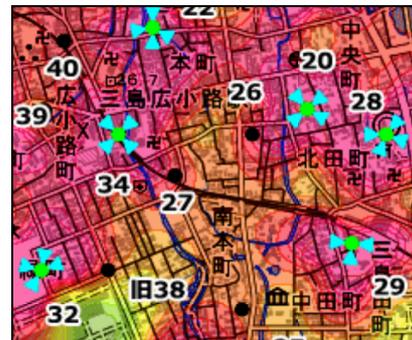
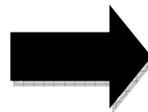
住民等に対し、市からの防災情報や行政情報を伝達する

3 デジタル化への経緯

現在、三島市ではアナログ方式と言われるもので運用していますが、柱やスピーカーなどの設備の老朽化やアナログ方式の部品の生産が終了したことから、国で推進するデジタル方式への設備更新が必要となっています。

また、子局同士が近いいため音が重なって聞こえる箇所や一方で聞こえにくい箇所が確認されていることから、デジタル方式への更新を機に、必要な子局への高性能スピーカーの導入や子局の集約（再整備）をするものです。

【子局集約の例（下図の範囲で11局→6局）】



※赤色が濃いほどよく聞こえる

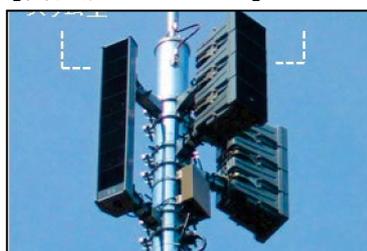
4 再整備の内容

- (1)柱の建替え
- (2)受信機をデジタル方式へ更新
- (3)最適なスピーカーの配置（高性能スピーカーの導入）
- (4)音の届く距離が伸びることによる子局の集約

【従来型スピーカー】



【高性能スピーカー】



5 デジタル化後の機能

(1)全ての子局に自局放送用のマイクを設置

(2)市からの放送が、市内全域放送だけでなくグループ放送も可能

※防災ラジオではデジタル方式の電波を受信することができませんが、アナログ方式の電波を並行して使用するため、引き続き防災ラジオでも同報無線を聞くことができます。

6 様々な情報伝達手段の周知

●同報無線	●テレビ
●エフエムみしま・かんなみ	●LINE
●市民メール	●Facebook
●緊急速報メール	●Twitter
●市ホームページ	

7 今後のスケジュール

令和5年度	5月(15・16日)	自主防災組織事務説明会にて概要説明
	5月～6月ごろ	各地区連合会にて説明
	7月～8月ごろ	各地区連合会で出た質問意見等への個別説明
令和6年度 ～ 令和8年度		工事に着手予定 1年目：機器製造、親局工事 2年目：子局工事 3年目：子局工事